

# ひらふ高原地域活性化事業

2013年4月

倶知安町 (商工観光課・企画振興課・建設課)

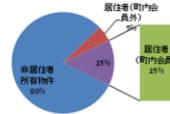
## 1) 地域の現状と課題

### 課題

- **国際リゾートとしての地区の将来像がない。(準都市・景観地区の法規制のみ)**
- 日本人の減少と外国人の増加により文化・習慣・考え方が変わり快適な生活空間が大きく変化
- 地域コミュニティの崩壊(8割の不動産オーナーが非居住による町内会機能低下)
- 駐車場の不足
- 震災影響後の観光客落ち込み(国内外対策)

今年、ひらふのインフラ整備マスタープラン  
をつくりま

ひらふの不動産所有状況と町内会員数  
(第1～3町内会)



主要要望内容 ( 要望団体:商工会議所・商店連合会・観光協会&支部・JA・町議会町民会議 ) H23.11提出

- 町有地を利活用した地元産業の活性化
- ひらふ地区の時代を見据えた振興計画・年次整備計画の策定について
- ホワイトハウス構想の実現(インフォメーションセンター・交番・ATM・郵便局など1つの施設)
- ひらふ坂交差点からサンスポーツランド方面に至る歩道の整備に関連した道路等整備
- サンスポーツランド再整備(まちおこし・地域交流・子育て世代活動・スポーツ交流・防災)
- 駐車場不足の解消、除排雪の充実
- 新たな地域組織(BID/CID)発足への支援、

さて、観光事業の発展と地域コミュニティの再構築を目指し、ニセコひらふBID/CIDについて取り組んでおりますが、本町としてもこの取り組みに連動してニセコひらふのまちづくり事業を推進して参りたいと考えております。

今年度はその計画づくり、つまりマスタープランの作成を計画しています。

今日は、正式には5月に全体集会を開いて進める予定ですが、その前段として皆様に情報提供させていただきます。

本町は、北海道はもとより世界でも屈指のパウダースノーを誇るスキー場を有し、平成14年ごろからはオーストラリアからのスキー客が急増、長期滞在型の国際リゾート地として海外からも注目されています。

また、スキー以外にも夏季におけるラフティングやトレッキングなど、年間を通じた多彩なアウトドアレジャーの楽しめるリゾート地域となっています。

ひらふ高原地域においては、海外からのスキー客の増加にともない、当地域ではコンドミニアムや別荘等の建設が急増しました。しかし当地域は、都市計画区域外であったことから、土地利用や建物に関する規制がないまま、開発が進められました。このため、用途の混在防止や街並みの保全、景観や風致の保全を図り、無秩序な開発等を排除する必要性から、平成20年には準都市計画区域及び景観地区が、平成21年には特定用途制限地域が指定されています。

これにより法に基づく規制はできたものの、国際リゾート地としての地区の将来像を示すことができていない状況にあります。また地域のコミュニティは、日本人の減少及び外国人の増加により、文化や習慣、考え方の違いから生活空間が大きく変化してきています。

さらに、外国資本による投資や国際化が進展する中で、地域に居住せず不動産物

件のみを持つ個人や法人が地区全体の80%に及ぶようになり、街灯の電気代やゴミステーションの管理など地域コミュニティを支えている町内会機能が著しく低下しています。

このような状況の中、当地域では「ニセコひらふリゾート分担金制度(仮称)」として、不動産所有者から負担金を集め、行政が通常提供する以上の公共サービスを地域自前で提供する組織を運営し、リゾートコミュニティの維持・改善と観光ビジネスの活性化を図るための新たな取り組みが進められています。

また、国際リゾート地としてふさわしい基盤整備として、現在地区の骨格をなす道道ニセコ高原比羅夫線(ひらふ坂)の全面ロードヒーティング・電線類地中化等の基盤整備事業が進められています。

本事業は、このような背景や課題、さらには各団体からの要望を踏まえ、国際リゾート地としてのひらふ高原地域の将来像を検討するとともに、地域の魅力を高める事業を抽出・整理し、現在進められている基盤整備事業や新たな取り組みと連動を図りながら、実現可能な都市再生整備計画としてとりまとめるとともに、観光中核施設基本計画を策定しますすることを目的として事業を行います。

## 2) 課題解決に向けた方針 (BID/CID事業は除く)

- 喫緊の課題から整備
- 整備効果の高い項目の整備
- ひらふ坂整備に連動した整備
- 社会資本整備交付金等の補助活用
- まちづくり支援(地域との協働・連携)
- 庁内連携体制(商工観光課・企画振興課・建設課)



## 3) 施策の方向

観光関連ビジネス  
の活性化

地域住民が安心  
して暮らせる環境

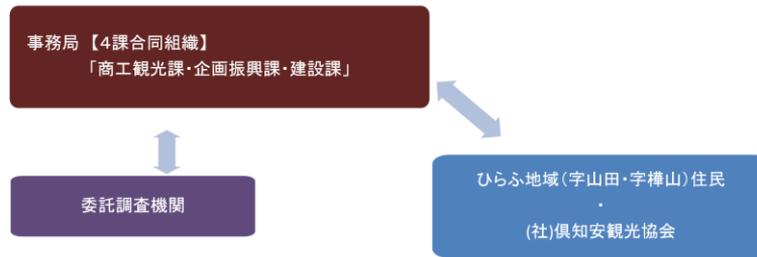
(ビジョン)  
住みたくなるリゾート ニセコ高原ひらふ  
「安心・安全・きれいで元気なひらふ」

町の施策 : ビジョンづくり、必要な施設整備

地域の課題解決にむけた方針としては、喫緊の課題や整備効果の高い項目、ひらふ坂整備に連動した事業、国の交付金制度等の活用を踏まえて整備をしたいと考えている。

施策の方向としては、観光関連ビジネスの活性化と地域住民が安心して暮らせる環境を踏まえて、「住みたくなるリゾート ニセコ高原ひらふ」ビジョンに沿って、ビジョンづくりと必要な施設整備計画をつくります。

#### 4) 事業実施体制



#### 5) H25年度 事業予算

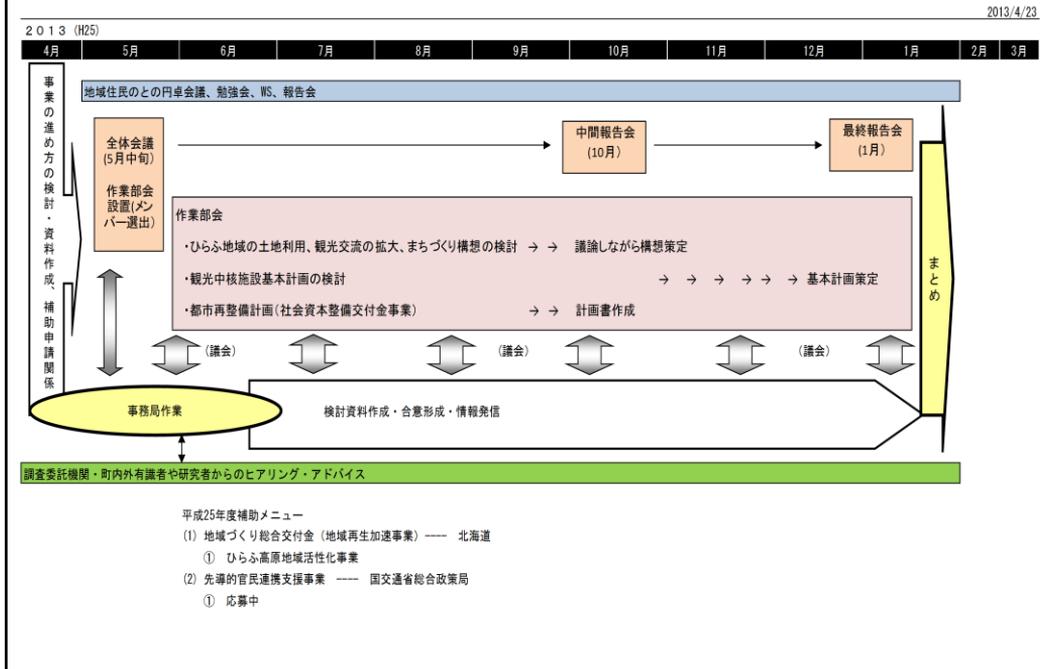
歳入	項目	金額(円)	備考
	道補助金	1,500,000	地域づくり総合交付金
	町一般財源	1,500,000	
	計	3,000,000	
歳出	項目	金額(円)	備考
	ひらふ高原地域活性化事業計画及び観光中核施設基本計画策定業務委託料	3,000,000	
	計	3,000,000	

この事業の実施体制にあたっては、商工観光課、企画振興課、建設課の3課による連携体制でひらふ地域の住民・観光事業者、一般社団法人倶知安観光協会と一緒に検討して参ります。

また、本事業のサポートとしてコンサル会社に発注し業務の支援をして頂きます。業者は今月末に決定する予定です。

当該事業予算は3百万円で、そのうち道から2分の1の地域づくり総合交付金を受けることになっています。

## 6) 進め方



事業の進め方としては、5月に全体会議を開催し事業をスタートさせます。その際に作業部会を設置し、部会のメンバーでたたき台をつくり、10月、1月にそれぞれ中間、最終報告会を行います。

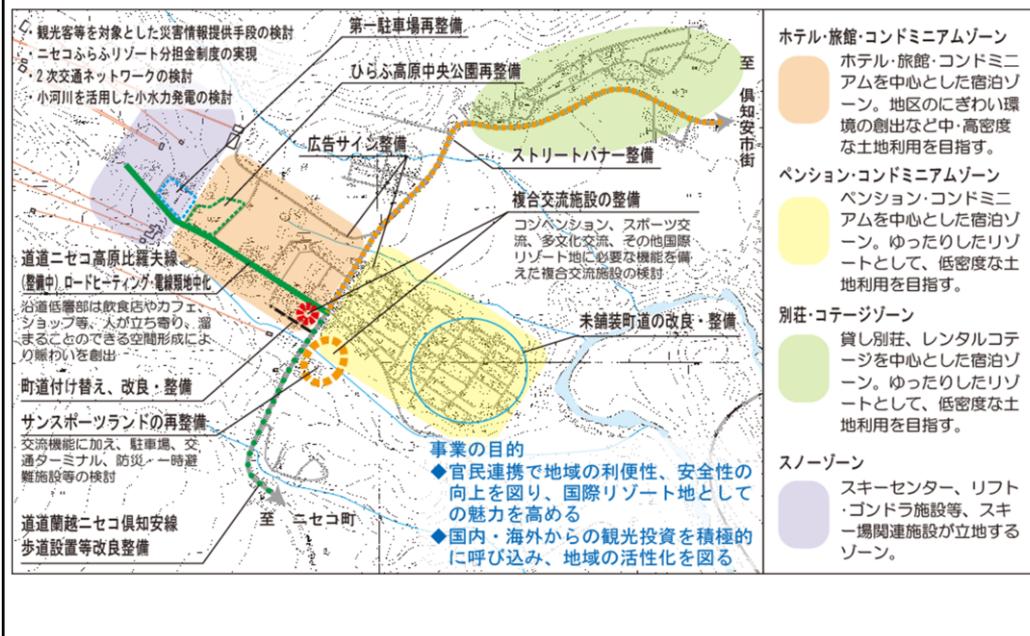
作業部会では、ひらふ地域の土地利用、観光交流の拡大、まちづくり構想の検討、観光中核施設基本計画の検討、次年度以降、国土交通省の都市再整備計画による事業費要望等を作成のためのたたき台をつくります。

事業期間は、来年1月末を完了として作業を進めます。

課題としては、皆さんで創ったひらふまちづくり構想が計画倒れのないよう、町の財政状況を踏まえながら整備となるため、どこまで施設規模が満たされるのか、あるいはスピード感ある事業が出来るか心配である。

しかし、ひとつでも多くの事業を手がける所存です。

# 検討イメージ



検討イメージをスクリーンに映していますが、検討エリアは、字山田・字樺山の地区を考えています。地域を俯瞰して様々な角度から検討したいと思います。

# 本町が今年度ひらふに投資する事業 全体事業費 152,665千円

- ・ ひらふ坂関連工事 123,399千円
  - 街路樹(11本) 3,231千円
  - コンセントポール(47本) 9,179千円
  - 防犯灯(13基・分電盤2基) 12,309千円
  - 電線引き込み事業 22,000千円
  - 上下水道管敷設替え工事・設計 70,216千円
  - ニセコ高原山田線取付改良工事 3,000千円
- ・ ひらふ高原5号線道路改良工事・用地確定測量 16,950千円  
(通称:ゆけむり通り)
- ・ RH電気料 3,464千円
- ・ ニセコひらふ地区における自立的なまちづくりの仕組みづくり= BID 5,852千円
- ・ ひらふ高原地域活性化事業 3,000千円

その他観光施策事業や施設維持管理等の経費は別途

また、直接この事業とは別に、今年度の本町がひらふ地区に投資する経費は、全体事業費で152,665千円となっています。

内訳としては、

ひらふ坂関連工事で 123,399千円、内訳は画面のとおり。

ひらふ高原5号線(通称:ゆけむり通り)道路改良工事・用地確定測量  
16,950千円

ひらふ坂ロードヒーティング電気料 3,464千円

ニセコひらふ地区における自立的なまちづくりの仕組みづくり= BID 支援事業  
5,852千円

ひらふ高原地域活性化事業 3,000千円

となっております。このほか観光施策事業や施設維持管理等の経費は別途予算計上されております。

なお、今年度の工事においては、皆様に何かとご不便をおかけすること多々あると思っておりますがご理解ご協力をお願いし、本町が今年度実施する事業について説明をいたしました。